

ベトナムにおける農産物・食品の規格認証制度活用促進

2022年2月

農林水産省

日越農業協力対話（2018年4月24日）

- 開催日：平成30年4月24日（火）
- 場 所：東京・農林水産省
- 出席者：
 - (1) 日本側：農林水産省（齋藤農林水産大臣他）、JETRO、JICA
 - (2) 越 側：農業農村開発省(クオン農業農村開発大臣、ズAIN副大臣他)、地方省人民委員会、在京ベトナム大使
- 概 要：

両国大臣間で、ベトナムにおけるフードバリューチェーン構築のための「日越農業協力中長期ビジョン」の改訂案の承認、また、「ベトナムにおける農産物・食品の品質に関する規格・認証の活用に向けた協力覚書」への署名を行った。

両国は、今回改訂した中長期ビジョン及び今回署名した協力覚書に基づく取組を着実に実行に移していくために、連携して努力していくことを確認した。



1 覚書の概要

ベトナムにおいて、農産物・食品の安全性や品質に関する消費者ニーズに目に見える形で応える規格・認証の活用に向けて、日越両国が協力して、

1. ベトナムにおける農産物・食品の規格・認証に関する現状把握と課題分析を行うための共同調査を行う。調査では、①農業生産工程管理（GAP）、②食品事業者による食品安全管理及び信頼確保に関する規格認証（HACCP、JFS）、③農産物・食品の品質、製法、管理方法等に関する規格を活用することで農産物・食品の取引を円滑化する取組（JAS、有機認証）も扱う。
2. 上記調査の調査事項決定、実施、調査によって特定された課題解決のための活動実施、成果の普及のため、日越両国の官民からなるワーキンググループを設置。

2 ワーキンググループ

- 1 メンバー
 - ①日側・・・農林水産省、日本GAP協会、食品安全マネジメント協会、農林水産消費安全技術センター、在越日本大使館、JICA事務所、在越の日系民間企業等
 - ②越側・・・農業農村開発省(国際協力局、栽培局、農林水產品質管理局、植物品種保護局、畜産局、水産局など)
- 2 業務：調査やその他の活動の方針決定、実施、結果確認
- 3 開催実績：2018年9月（調査方針確認）、2019年3月（調査結果と2019年度の活動方向の確認）、2020年2月、2021年1月、2022年1月

共同調査の結果

1. GAP

ベトナムのナショナルGAP（VietGAP）は、農業者向けガイドラインなどが未整備で、農家への普及が進んでいない。VietGAPは国内向けである一方、輸出に向けた国際的GAP認証取得へのニーズがある。

2. 食品安全システム（加工食品）

HACCPやISO22000の小企業への普及は未着手で、輸出先での食品衛生上の違反事例が起こっていることから、認証システム強化が必要

3. 有機農業

第三者認証の国家規格としての有機認証の制度は未整備。

協力の方向性（提言）

- JGAP、ASIAGAP、有機JAS、JFSといった日本発の規格認証の普及を進めるための人材育成は歓迎。
- 一方で、ベトナム独自の規格認証の整備・普及も同時に進めていくための協力にも期待。
- 今後、ベトナム側の意向も踏まえて協力内容の詳細を検討し、双方それぞれの認証制度を運営していく上での共通点に焦点を当てた協力をを行う。

ベトナムにおける農産物・食品に関する規格・認証の活用に向けた協力 (これまでの成果と今後の予定)

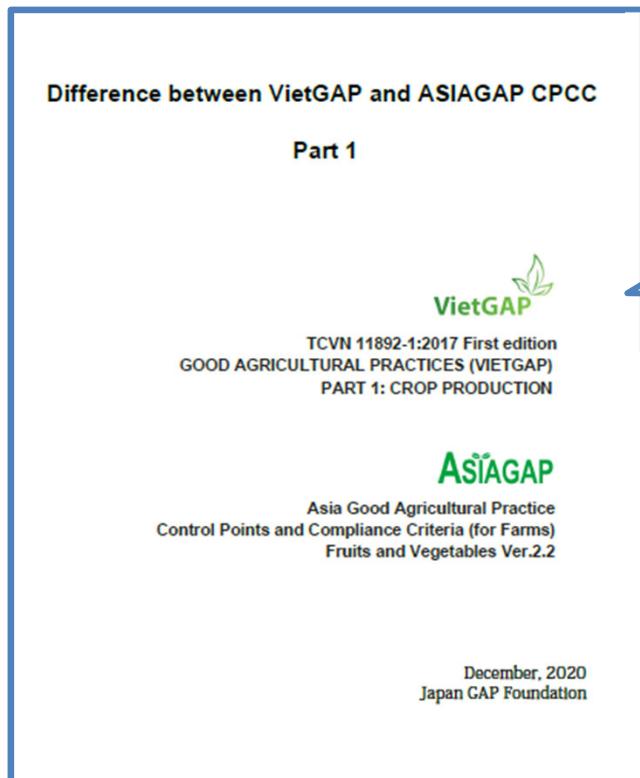
	GAP分科会	食品安全マネジメント分科会	有機分科会
これまでの成果	<ul style="list-style-type: none"> VietGAPとASIAGAPの差がわかる文書の作成 ASIAGAP指導員候補約20名の養成(予定) 	<ul style="list-style-type: none"> 認証機関への登録の関心が示された 	<ul style="list-style-type: none"> 有機JAS登録外国認証機関の誕生 有機JAS認証事業者の増加(2017年16事業者→2021年41事業者)
今後の活動予定	<ul style="list-style-type: none"> ASIAGAP指導員養成のための研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> 監査員養成のための研修実施 	<ul style="list-style-type: none"> 有機JAS規格認証についてのセミナー開催

協力目標	<ul style="list-style-type: none"> VietGAPの普及 ASIAGAP認証取得体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> JFS規格を含む食品安全管理システムの監査体制の整備と普及 	<ul style="list-style-type: none"> ベトナムの有機規格(TCVN)の普及と有機JAS認証活用促進
メリット	<ul style="list-style-type: none"> ASIAGAPの認知度向上により日本からベトナムへのASIAGAP認証品の輸出拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 日系食品製造業者のベトナムからの原料調達の拡大。 日本からベトナムへのJFS認証取得品の輸出拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 有機JASの認知度向上により日本からベトナムへのJAS認証品の輸出拡大

● VietGAPとASIAGAPの差がわかる文書の完成

● ASIAGAP指導員候補約20名の養成

○ VietGAPとASIAGAPの差がわかる文書



ベトナムの国家規格であるVietGAPと、日本発の国際水準の認証プログラムであるASIAGAPの規格の比較ができる差がわかる文書により、VietGAP取得からASIAGAP取得に向けてのステップアップが行いやすくなることが期待される。

○ ASIAGAP指導員の養成研修

将来的にベトナム国内でのASIAGAP認証取得が可能となる環境整備に向けて、ASIAGAP指導員養成の研修を実施。

●ベトナムに東南アジア初となる有機JAS登録外国認証機関の誕生

●ベトナムにおける有機 J A S 認証事業者の増加

プレスリリース

ベトナムにJAS登録外国認証機関第1号誕生！

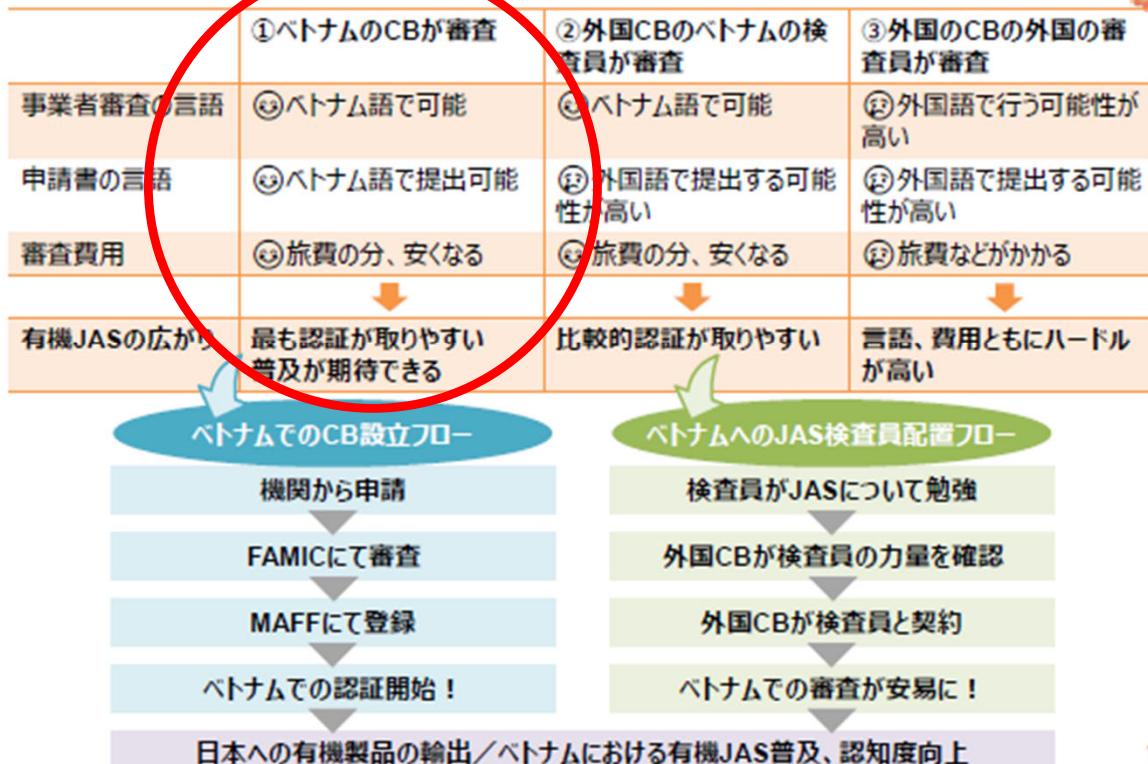
[Tweet](#) 印刷

令和3年9月13日
農林水産省

~~~ベトナムにおける有機農業の発展が期待されます~~~

ベトナム国内の政府機関であるVietnam Certification Centre(QUACERT)は、ベトナムで初めてJAS法に基づく登録外国認証機関となり、このたび、有機JASの生産農家等の認証を開始しましたのでお知らせします。

### 有機JAS認証のロードマップ



## ●ベトナムにおける有機 J A S 認証事業者数（2021年8月現在）

|        | 2017年 | 2018年 | 2019年 | 2020年 | 2021年 |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 認証事業者数 | 16    | 22    | 37    | 39    | 41    |

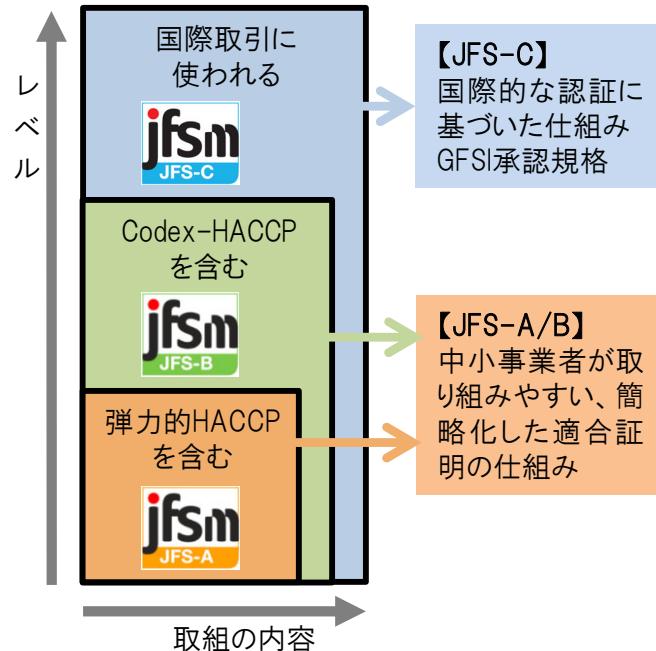
## (参考)日本発の規格・認証制度

### JFS規格

JFS規格 : Japan Food Safety  
(日本発食品安全管理規格)



フードチェーン全体での食品安全確保のための取組を標準化し、自らの食品安全レベルを向上させることを目的として、一般財団法人食品安全マネジメント協会が開発した日本発の食品安全マネジメントシステムの認証スキーム。



### ASIAGAP

GAP : Good Agricultural Practice  
(農業生産工程管理)



食の安全や環境保全に取り組む農場に与えられる認証で、ASIAGAPは日本発の国際水準の認証プログラム。日本GAP協会が日本でもっとも認証件数の多いJGAPをもとに、GFSIの要求事項に応じて策定したもの(対象は穀物と青果物、茶の生産と管理)。



2018年10月に、日本発の食品安全管理規格であるJFSとASIAGAPがGFSIの承認を得た。

GFSI : Global Food Safety Initiative  
(世界食品安全イニシアティブ)

世界的に展開する食品企業が集まり、食品安全の向上と消費者の信頼強化のため、協働して食品安全管理規格の承認等を行う民間団体。

### 有機JAS

有機JAS : Organic-Japanese Agricultural Standards  
(有機食品の日本農林規格)



農薬や化学肥料などの化学物質に頼らず、自然界の力で生産された食品についての認証で、農産物、加工食品、飼料及び畜産物が対象。

有機食品のJASに適合した生産が行われていることを登録認証機関が検査し、認証された事業者のみが有機JASマークを貼ることを許される。